

JST-RISTEX「持続可能な多世代共創社会のデザイン」研究開発領域プロジェクト
「多世代哲学対話とプロジェクト学習による地方創生教育」

研究代表者：河野哲也（研究開発期間：平成28年10月～平成29年9月）

http://ristex.jst.go.jp/i-gene/projects/h28/project_h28_7.html

年月日	名称	場所	概要・反響など	参加人数
H28/10/30	気仙沼てつがく探検隊	気仙沼中央公民館 気仙沼図書館	子ども向けのプログラム「気仙沼てつがく探検隊」を実施した。午前中は、気仙沼図書館周辺の植物や生き物を観察、採集し、環境フィールドワークを体験した。午後、気仙沼中央公民館にて参加者から挙げられた「どうしたら身近なものに気づくようになる？」という問いで哲学対話を行った。活動全体を振り返ったのち、参加者はそれぞれ気になる疑問について気仙沼図書館で調べた。	約10名(小中学生)
H28/12/23	哲学カフェ	岩手県立図書館	岩手県立図書館にて哲学カフェを開いた。「本当に頭が良くなってどうということ？」という問いで哲学対話をした。	16名
H29/02/23	中田洋子さんへのインタビュー・対話	琉球新報社	東京大学の梶谷准教授を中心として、中高生向けのキャリア塾を立ち上げ、中高生向けのビジネスのコンサルティングもしてきた高校生に、高校生が考える地方でのキャリアについてイン	11人(中田さん・出張に同行した学生)

			<p>タビュウをした。その後、立教大学の学生とキャリアに関する対話をした。その模様は『琉球新報』2017.2.24. 朝刊「高校生、教授と哲学対話」に掲載されている。</p>	
H29/02/24	哲学対話の授業	沖縄市立室川小学校	<p>小学6年生を対象に哲学対話の授業をおこなった。『対話する哲学教室』の一部を教材として、嘘についての哲学対話を行った。その模様は『琉球新報』2017.2.25. 朝刊「「うそ」って何？室川小で「てつがくカフェ」」に掲載されている。</p>	約50名(小学校6年生2クラス)
H29/02/24	哲学カフェ	浦添市立前田ユブシが丘センター	<p>小学生が集まる社会教育施設で小学生向けの哲学カフェを開いた。『ふたりはともだち』の一節の読み聞かせをした後、哲学対話を行った。</p>	7名(小学生)
H29/02/25	第3回りゅうPON! てつがくカフェ	琉球新報社	<p>琉球新報の小学生向けの新聞『りゅうPON!』の読者を対象とした哲学カフェを開いた。当日集まった参加者からテーマを募り、多数決で決めた「なぜダメと分かっているけどやってしまうのか」という問いで哲学対話をした。その模様は『琉球新報』2017.02.26 朝刊「答えは一つじゃないよ 親子40人がてつが</p>	親子40人

			くカフェ」に掲載されている。	
H29/02/25	哲学カフェ@ ジュンク堂書店	ジュンク堂 書店那覇店	ジュンク堂書店那覇店でのイベントの一つとして哲学カフェを開いた。事前に宣伝した「基地問題」をテーマとして哲学対話を行った。	20名
H29/02/26	哲学対話のすすめかた（初心者向け・中級者向け）	琉球新報社	東京高専の村瀬准教授を講師に招き、哲学対話のファシリテーターを養成する講座を開いた。午前中の「初級者向け」では、日本で行われている哲学対話という活動の概要やその背景にある理論を説明したのち哲学対話の体験講座を行った。午後の「中級者向け」では質問ゲームなどを通してファシリテーションに関するスキルを確認した後、哲学対話の進行役を体験する講座を行った。	25名
H29/02/27	哲学対話の授業	沖縄市立比 屋根小学校	小学6年生を対象に哲学対話の授業を行った。『対話する哲学教室』の一部を教材として、嘘についての哲学対話を行った。	約 110 名 (小学校 6年生 3 クラス)
H29/03/04	プレ哲学教室 あーだこーだ	山田町立図 書館	4月より開始した「てつがく探検隊」のプレイベントとして、図書館で哲学カフェを開いた。集まった参加者からテーマを募り「そもそもべんきょうってなに？」という問いで哲学対話を	6名

			した。	
H29/03/05	子どもてつがく探検隊	気仙大工左官伝承館 箱根山テラス	子ども向けのプログラム「子どもてつがく探検隊」を実施した。午前中に気仙大工左官伝承館にて「気仙茶のワークショップ」を体験したのち、午後は箱根山テラスにて哲学対話を行った。哲学対話の問いは「昔の作り方より機械で作った方がいいのでは？」であった。	8名（小学生）
H29/03/19	気仙沼てつがく探検隊	水山養殖場 九九鳴き浜 気仙沼中央公民館 気仙沼図書館	子ども向けのプログラム「気仙沼てつがく探検隊」を実施した。午前中は、水山養殖場にてNPO法人 森は海の恋人の畠山信氏による環境ガイド、九九鳴き浜にて生態観察を体験した。午後、気仙沼中央公民館にて参加者から挙げられた「自然を感じるってどういうことか？」という問いで哲学対話を行った。活動全体を振り返ったのち、参加者はそれぞれ気になる疑問について気仙沼図書館で調べた。	約10名（小中高生）
H29/04/29	子どもてつがく探検隊 あ～でもねえ こ～でもねえ	山田町ふれあいセンター オランダ島	子ども向けのプログラム「子どもてつがく探検隊 あ～でもねえ こ～でもねえ」を実施した。午前中はオランダ島にて山田町観光協会の道又氏によるフィールドワークを体験した。午後は、	5名（小学生）

			その内容を受けて、山田町ふれあいセンターにて、参加者から出された「あの島に一人で住むことになったらどうだろう？住めるのかな？」という問いで哲学対話をした。	
H29/04/30	哲学カフェ	岩手県立図書館	岩手県立図書館にて哲学カフェを開いた。テーマは「生きるとは？」で、当日集まった参加者から募った問いで哲学対話をした。	12名
H29/06/03	「個人の再建からコミュニティの創生へ」	陸前高田グローバルキャンパス	陸前高田市被災市街地復興土地区画整理事業に関わっている村上毅彦氏の講演を聞いたのち、その内容を受けて岩手大学の学生と立教大学の学生で哲学対話を行った。復興、被災、地域、その他のテーマ別にグループを分け、それぞれ参加者から問いを募り、哲学対話を行った。	33名（岩手大学学生）
H29/06/04	子どもてつがく探検隊	気仙大工左官伝承館 正徳寺 陸前高田グローバルキャンパス	子ども向けのプログラム「子どもてつがく探検隊」を実施した。午前中は、気仙大工左官伝承館にて、蔵造りを解説する展示物を見学しながら気仙大工についてのお話を聞き、気仙大工によって建てられた正徳寺の住職千葉氏のお話を聞いた。午後は、それを受けて家屋や道具の今と	6名（小学生）

			昔の違いという話題から、哲学対話を行った。	
H29/06/24	第2回 子どもてつがく探険隊 あ～でもねえ こ～でもねえ	山田町ふれあいセンター 長崎Ⅱ遺跡 山田町立図書館	子ども向けのプログラム「第2回 子どもてつがく探険隊 あ～でもねえ こ～でもねえ」を実施した。午前中は町内にある長崎Ⅱ遺跡にて山田町生涯学習課の小野寺氏による「発掘された山田」フィールドワークを体験した。その後、山田町立図書館にて長崎Ⅱ遺跡の発掘調査の様態を解説してもらった。その内容を受けて大人と子どもでグループ分けをして哲学対話を行った。	4名（小学生）
H29/06/25	哲学カフェ	岩手県立図書館	岩手県立図書館にて哲学カフェを開いた。テーマは「生きがい」で、当日集まった参加者から募った問いで哲学対話をした。	8名
H29/07/22 -23	気仙沼てつがく探検隊	旧月立小学校 八瀬川 八瀬・森の学校	子ども向けのプログラム「気仙沼てつがく探検隊」を実施した。初日はまず、旧月立小学校に集合し、今回のフィールドワークの内容と関連のある資料の案内を気仙沼図書館の山口司書から案内を受けた。次に八瀬川に入って生き物を観察、採集して、小学校に戻って見たり触ったりした生き物の情報を調べた。さ	6名（小中高生）

			らに地元の食材をつかて自分たちで夕食のカレーを作り、残り火で花炭作りを体験した。2日目の午前中にそれまでの内容を受けて、参加者から挙げられた問いで哲学対話を行った。その後、八瀬・森の学校にてそば打ち体験をした。	
H29/08/26	哲学カフェ	岩手県立図書館	岩手県立図書館にて哲学カフェを開いた。テーマは先回の最後に決めた「理想の家族」で、当日集まった参加者から募った問いで哲学対話をした。	8名
H29/08/27	第3回 子どもてつがく探険隊 あ～でもねえ こ～でもねえ	山田町ふれあいセンター 四十八坂 八幡宮 山田町立図書館	子ども向けのプログラム「第3回 子どもてつがく探険隊 あ～でもねえ こ～でもねえ」を実施した。午前中は遠野物語の舞台となった四十八坂で遠野物語「狐」の音読を聞いた後、長根勝氏から遠野物語に出てくる明治三陸大津波と東日本大震災の際の大津波についてお話を伺った。午後は、ふれあいセンターにて、その内容を受けて大人と子どもでわかれて哲学対話を行った。	4名（小学生）
H29/09/06	町おこし協力隊との哲学対話	高知県四万十市役所	四万十市町おこし協力隊・四万十市職員を対象に、地方創生をテーマに哲学カフェを開いた。	7名（四万十市町おこし協力

			当日は参加者から挙げられた「移住」に関する問いについて哲学対話を行った。	隊・四万十市職員)
H29/09/07	哲学対話の授業	四万十市立大用小学校	小学校5・6年生を対象に哲学対話の授業をおこなった。『教えて！哲学者たち 上巻』の一部を教材として、正しさをテーマにした哲学対話を行った。	11名(小学校5・6年生)
H29/09/07	哲学対話の授業	四万十市立川登小学校	小学校2～6年生を対象に哲学対話の授業をおこなった。『なぜあんなに』を教材として、児童と哲学対話を行った。	8名(小学校2～6年生)
H29/09/17	哲学カフェ@ジュンク堂書店	ジュンク堂書店那覇店	ジュンク堂書店那覇店でのイベントの一つとして哲学カフェを開いた。事前に宣伝した「音楽を哲学する」というテーマで哲学対話を行った。	10名
H29/09/18	第4回りゅうPON! てつがくカフェ	琉球新報社	琉球新報の小学生向けの新聞『りゅうPON!』の読者を対象とした哲学カフェを開いた。当日集まった参加者を年齢別に3つのグループに分け、グループごとに参加者から挙げられた問いで哲学対話をした。その模様は『毎日小学生新聞』2017.10.02 8面「なぜ勉強するの? 親子15人参加」、『りゅうPON!』2017.10.01 1面「キラリ★イチオシ てつがくカフェ ゆっくり	親子15人

			話して考えよう』、『りゅうPON!』2017.10.01 4・5面「答え出ずとも対話楽しむ」(琉球新報社)に掲載されている。	
H29/09/18	哲学対話のすすめかた(初心者向け)	琉球新報社	東京高専の村瀬准教授を講師に招き、哲学対話のファシリテーターを養成する講座を開いた。問いを作る練習やを進行のコツを説明したのち哲学対話の体験講座を行った。	11名
H29/09/19	哲学対話の授業	沖縄市立高原小学校	小学4年生を対象に哲学対話の授業を行った。こちらで事前に考えていた5つの問いから多数決で選んでもらった「ほんとうの友達って何?」という問いで哲学対話を行った。	約120名 (小学4年生4クラス)
H29/09/19	哲学対話の授業	沖縄市立比屋根小学校	小学6年生を対象に哲学対話の授業を行った。こちらで事前に考えていた5つの問いから多数決で選んでもらった「ほんとうの友達って何?」という問いで哲学対話を行った。	約120名 (6年生3クラス)